

正常圧水頭症の定義、ガイドライン

水頭症は、脳室内の過剰な脳脊髄液貯留を特徴とします。通常は、60代、70代の高齢者に発症し、友人の名前を忘れてしまったり、近所を散歩することもできなくなったりすることがあります。シャントを留置することで、症状の緩和に役立てることができます。

定義

水頭症とは、脳室内の過剰な脳脊髄液の貯留を指します。正常圧水頭症は水頭症の一種で、特に60代、70代の高齢者に発症します。

正常な状態では、「脳室」と呼ばれる空洞内で脳脊髄液の産生、循環、吸収の微妙なバランスが保たれています。水頭症は、脳脊髄液が脳室系を流れて通過できなくなったときや血流内に吸収される脳脊髄液の量と産生される脳脊髄液の量のバランスが崩れたときに起こります。

症状

正常圧水頭症の特徴として、通常は以下の順で次の3症状が徐々に現れます。歩行障害（歩行困難）：小幅で足を引きずるように歩く。転びやすい。足が重く感じられる。階段使用が困難。

尿失禁（排尿のコントロールの障害）：頻繁に、または急に排尿したくなる。排尿を我慢することができない。

軽い認知症（認識機能障害）：健忘症。短期記憶喪失。行動への関心の欠如。気分の変化。

原因

他の種類の水頭症と同じように、正常圧水頭症の特徴のひとつは脳室の肥大です。拡張した脳室は、脳と脊髄の間の神経経路をゆがませ、症状を引き起こすと考えられています。脳に送られる血流量が減少する場合があります。

正常圧水頭症の患者さんの50%以上では、水頭症の原因がはっきりしません。一部の患者さんには、脳出血（動脈瘤破裂や脳の外傷などによる）や髄膜炎の病歴がみられます。しかし、このような状態がなぜ、どのようにして正常圧水頭症を引き起こすのかは、明らかになっていません。

診断

すべての症状が同時に起こるわけではないので、ある症状が発生したからといって正常圧水頭症であると診断することは難しい場合があります。さらに、これらの症状が、高齢の方に一般的にみられるその他の病気（例：パーキンソン病、変形性関節症、アルツハイマー病）にも密接に関係していることもあります。通常、正常圧水頭症について調べるときにはいくつかの検査が行われます、様々なフローを経て慎重に診断されます。

特発性正常圧水頭症（とくはつせいせいじょうあつすいとうしょう）は、何かし

らの原因で、頭蓋（ずがい）内に脳脊髄液（のうせきずいえき）が溜まり、脳が圧迫され、歩行障害・認知症・尿失禁などの症状が出る病気で、「治療で改善できる認知症」としても注目されています。また、“idiopathic Normal Pressure Hydrocephalus”の頭文字をとって iNPH（アイエヌピーエイチ）とも言います。iNPH の罹患者は全国に約 37 万人いると言われていますが、その特徴が加齢にともなう症状に似ているため、歳のせいだからと見逃され、治療の恩恵を受ける患者さんは全体の 1 割にも満たないのが現状です。iNPH は早期治療により、症状の改善度合いが高いという臨床結果が報告されています。病気のサインを見逃さず、少しでも思い当たることがあれば、脳神経外科・脳神経内科のある病院を受診しましょう。

脳脊髄液が溜まり、脳を圧迫

iNPH の 3 徴候

iNPH の病気のサインは、歩行障害・認知症・尿失禁の 3 つ（3 徴候）です。特に歩行障害がもっとも特徴的な症状で、最初に出ることが多く、認知症が現れる他の病気と区別するポイントにもなります。歩行障害に加え、認知症や尿失禁の症状が重なって出てきた場合は iNPH の可能性が高まります。

歩行障害

最近歩きにくくなった…

認知症

やる気が出ない、

物忘れ…

尿失禁

トイレに間に合わない…

歩行障害

そのほか、ひざを上げづらい、すり足になる、歩幅が小刻みになるなど、歩行が不安定になります。また、ひざが外に開いた状態で（ガニ股のように）歩くことも特徴です。特に曲がったり、U ターンするときによろめきが強く、転倒することがあります。障害が強くなると、一歩目が出ずに歩き始められなくなったり、起立の状態を保持できなくなります。歩行障害が初期症状として現れることが多いとされており、3 徴候のうち、治療でもっとも改善が得られる症状でもあります。

開脚歩行（少し足が開き気味で歩く）

小刻み歩行（小股でよちよち歩く）

すり足歩行（ひざが上がらない状態）

不安定な歩行（特に方向転換のとき）

転倒する

一歩目が出ない（歩きだせない）

突進現象（うまく止まることができない）

自発性がなく、思考や行動面での緩慢さが目立ちます。一日中ぼーっとし、日課としていた趣味や散歩などをしなくなるといったことが起こり、物事への興味

や集中力をなくし、物忘れも次第に強くなります。

集中力、意欲・自発性が低下

趣味などをしなくなる

呼びかけに対して反応が悪くなる

一日中ぼーっとしている

物忘れが次第に強くなる

尿失禁

トイレが非常に近くなったり、我慢できる時間が短くなったりします。歩行障害もあるために間に合わなくて失禁してしまうこともあります。